生徒会長　坂下菜奈子さん

次世代を担う私たちがこの地域を支え育てていただいた方へ恩返しがしたい

創立90周年記念式典

11月9日に、市文化会館で福島高校の創立90周年記念式典が行われました。式典にはたくさんの来賓の方や地域の方々が来てくださいました。

フィナーレでは女学校時代の校歌を歌うなど、普段ではできない貴重な体験をすることができました。私はこのような記念すべき年を、福島高校の生徒として迎えられたことに心から感謝しています。

恩返しがしたい

私たち福島高校生は、将来この地域を支え、国を支え、人を支えられる人間として、日々成長し、自分たちの夢実現のためにこれからも歩んでいきます。それが、次世代を担う私たちに課せられた使命でもあり、この学校を残していただき、育てていただいた皆さんへの恩返しだと思います。

今の生徒会の取り組み

今、生徒会では「あいさつ日本一」「ケータイプロジェクト」の2つに取り組んでいます。

「あいさつ日本一」は昨年から取り組んでいることで、1学期にアンケートをとったところ生徒会が決めた3つの基準を一つもクリアできませんでした。今後も目標達成に向けて、生徒一丸となって取り組んでいきたいと思います。生徒会では、毎週2回、正門や東門に立って朝のあいさつ運動をしています。

朝のあいさつ運動の様子

「ケータイプロジェクト」は家での携帯電話の使いすぎによって勉強時間が不足したり、犯罪やいじめなどの問題に巻き込まれないようにするために、各クラスのボランティアでプロジェクトチームを作り、問題を解決するものです。最終的には携帯電話の正しい使い方を載せたハンドブックを作ることを目標にしています。

この2つの取り組みが達成できるよう、生徒全員で力を合わせて頑張っていきます！

創立90周年記念事業 歴史資料室

創立90周年記念事業として、福島高校の足跡や先輩方の偉業などを展示した「歴史資料室」を設置しました。どなたでも自由に見学できます。ぜひお越しください。

なお、現在も歴史のある資料を募集しています。卒業生の方で、提供できるものがございましたらご連絡ください。

●問い合わせ先
宮崎県立福島高等学校　TEL 72-0049

地元の子どもを地元で育てる――串間市唯一の高校として地元の発展に貢献する人材を育成することが本校の使命です

小規模校の特徴を生かして

本校は、1学年3学級の小規模校です。小規模校の特徴として、生徒同士が『みんな仲間だ』という絆の強さがあります。クラスや学年の垣根が低く、生徒会活動も活発。また、生徒と先生との関係性もそうです。私たちは、関わりのある生徒もそうでない生徒も一人の福島高校生として見守っています。

また、小規模校だからこそ、少人数指導や個別指導など細やかな指導を行うこともできます。

地元のほうが『伸びる』

福島高校生が『伸びる』のには理由があります。

まず、地理的にも精神的にも『近い』ということが時間のゆとりにつながります。それが心の余裕を生み、何かに挑戦しようという気にさせるのです。

また、先ほど話した小規模校の特徴である『みんな仲間』というところにも結びつきます。人は、仲間がいると挑戦しようと思うものです。一人だと諦めてしまうけれど、仲間の存在が背中を押してくれ、もし失敗しても受け入れてくれると安心させてくれる。だからこそ本校の生徒は挑戦して、成長していくのです。

『伸びる』ということは、今までできなかったことができるようになること。つまりは挑戦して成長することなんですよ。

学力だけじゃない『人間力』

本校では『表現力』の育成に力を入れています。この『表現力』つまりコミュニケーション能力は、社会人としての基礎として必要不可欠な『人間力』の一つです。あいさつはその第一歩。本校の生徒はあいさつがとても良い。今年の生徒総会で「あいさつ日本一」の公約を掲げ、目標を3つ、具体的に決めました。「こうしなさい」と言われてからやるのではなく、生徒たちが自ら行動し、自分たちで達成しようとしていることに意味があるのです。

存続のために

平成20年の通学区域撤廃の影響もあり、昨年度は、市内の中学3年生172人のうち、約半数は市外の高校へ進学しています。1学年120人の本校は定員割れ。県内で高校再編整備が進み、本校も統廃合の対象となる可能性があります。

串間市唯一の高校を存続させるために、本校も6年前から市教育委員会主催の小中高一貫教育に参加しています。小中高一貫教育では、子どもたち一人ひとりの指導が系統的にできます。教科の指導に一貫性が生まれて、知識を積み上げられる。また、小中学生が高校のことを『知る』良い機会にもなっています。先生同士のネットワークも出来ました。

人材育成のために

これからの串間市は、今ある産業だけでなく、新しい産業を創造し実現できる人材が必要であると考えます。

新しい産業を生み出すためには、大学などで専門的・社会的な知識を学ぶ必要があります。普通科のある本校からは大学へ進学する生徒もたくさんいます。進路実現を果たし、巣立っていった卒業生がふるさとに帰ってきて、串間市を支える人材になってほしいです。福島高校出身だからこそ「ふるさと串間のために何とかしよう！」と思うのではないでしょうか。

一人ひとりの生徒の潜在能力を開花させ、進路実現を果たし、5年後、10年後の串間市を支える人材を育成することが、本校の使命だと考えています。

宮崎県立福島高等学校
校長　宮野原章史さん